

平成15年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ムロアジ類

学名 *Decapterus spp*

系群名 東シナ海

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特徴

- 寿命： 5～6歳程度
成熟開始年齢： 不明
産卵期・産卵場： 春～夏季にかけて産卵する魚種が多い、東シナ海の広い範囲で産卵するが魚種により異なる
索餌期・索餌場： 不明
食性： 動物プランクトンを主体に捕食
捕食者： 大型魚類やほ乳類

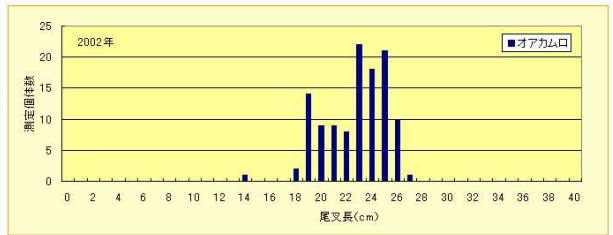
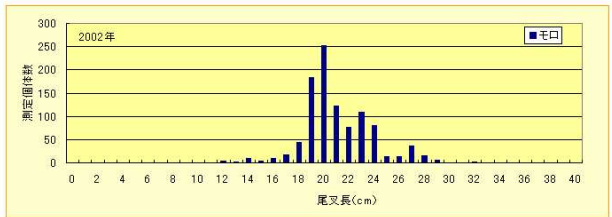
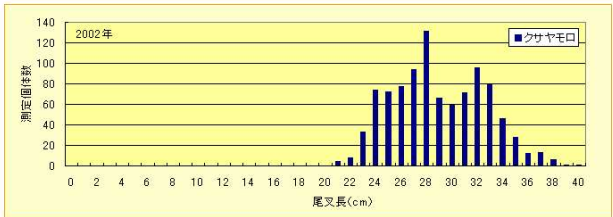
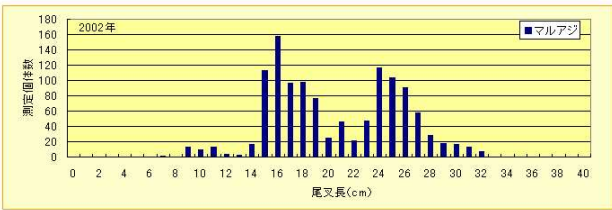
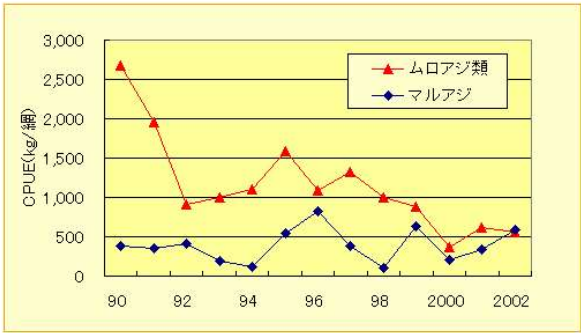


漁業の特徴

本資源は大中型まき網および中型まき網により漁獲されるものがほとんどであり、東シナ海区(福岡県～鹿児島県)でみると、ムロアジ類の漁獲量のうち大中型まき網が約7割、中型まき網が約2割をしめる。東シナ海区で多く漁獲されるムロアジ類は、マルアジ、ムロアジ、モロ、クサヤモロ、オアカムロ、アカアジである。中国もムロアジ類を多く漁獲している。

漁獲の動向

東シナ海区の漁獲量は1984年の76千トンピークに一度減少したもの、1989年と1990年に60千トンを超える漁獲量があった。その後減少し続け、2000年は10千トンを下回る漁獲量であったが2001年以降やや増加した。日本海西区は多くても6千トン程度の漁獲量である。1990年代半ばに漁獲量が1千トンを下回っていたが、1997年以降やや増加傾向にある。日本海北区は、200トン以下の漁獲量である。東シナ海区と日本海西区の2002年の合計漁獲量は約18千トンであった。

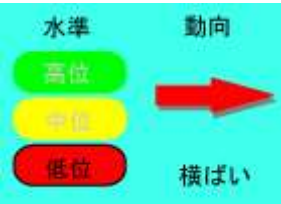


資源評価法

魚種が複数含まれ、現在のところ資源量を推定するに至っていない。沖合域の資源水準・動向は、大中型まき網の漁獲量とCPUE(漁獲量／有効努力量)で判断した。沿岸域の資源水準・動向は、鹿児島県枕崎・阿久根に水揚げされるムロアジ類の漁獲量の経年変化で判断した。

資源状態

大中型まき網のCPUEをみると、1990年以降、ムロアジ類(マルアジ除く)は1995年をピークに2000年まで減少し続けたが、2001年以降は2000年よりもやや増加した。一方、マルアジは1996年と1998年に小さなピークがあるものの、小刻みな変動を繰り返している。沿岸域では、鹿児島県阿久根と枕崎におけるムロアジ類の漁獲量の推移から、マルアジは2000年、2001年とやや増加傾向にあるが、その他のムロアジ類は横這いである。



管理方策

東シナ海で漁獲されるムロアジ類のうち約7割を占める大中型まき網のCPUEを用いてABCを算定した。指標となる大中型まき網のCPUEでは、ムロアジ類・マルアジとも2000年は低かったが、2002年はやや増加した。資源が低位であるので、ABClimitはCcurrentとした。ABCTargetは、資源変動の不確実性を考慮し $0.8 \times ABClimit$ とした。

	2004年ABC	管理基準	F 値	漁獲割合
A B C limit	18千トン	Ccurrent	-	-
A B C target	14千トン	$0.8 ABClimit$	-	-

資源評価のまとめ

- ムロアジ類には複数種が含まれて、種毎の生物学的特性および資源指標がないため資源量を推定することが困難
- 沖合域で操業する大中型まき網によるCPUEと、沿岸域におけるマルアジの水揚げ量は、2001年以降はやや増加

資源管理方策のまとめ

- 2002年の大中型まき網のCPUEおよび沿岸域の水揚げ量は2001年より増加したが、資源が依然として低位と判断されるため、現在程度の漁獲量に留めるべき
- 外国の漁獲量も考慮することが今後必要

資源評価は毎年更新されます。